

平成31年度 事業計画書

<基本方針>

公益財団法人盛岡地域地場産業振興センターは、盛岡地域の自然と歴史、伝統のなかで育んできた地域の文化に由来する地場の産業振興を目的として、平成31年度も広域8市町との連携強化に努め盛岡地域の地場産業の振興を図り、地場産業の育成と強化などに取組むこととする。

特に11月には第36回伝統的工芸品月間国民会議全国大会岩手大会が開催されることとなり、全国から多くの伝統工芸士が訪れる。その素晴らしい作品を間近で見られるとともに全国の伝統工芸士との交流も図られることから、広域内の「ものづくり事業者」においても非常に価値のあるものとなることと思われる。また、9月には釜石市でラグビーワールドカップが開催される他、現在、空の便では台湾の定期便に次いで上海市とのチャーター便が就航など、平成31年度は当地域にも多くのインバウンドに訪れていただけるものと推測され、盛岡地域の地場産業PRを図る絶好の機会になるとと思われる。こうしたことから、当センターは盛岡地域の地場産業事業者や広域市町及び関係機関との連携を更に充実させ、地域内の工芸品や食品の紹介宣伝、普及啓発を図ることとする。

今年4月30日には平成の時代も終わり、新しい時代が幕を開けることから当センターは新たな時代においても、地場産業の理解向上を目的として、地域内の小中学校、老人施設を対象に体験学習や地場産品の資料展示を活用したキャリア教育、生涯教育の場の提供、人材育成事業による後継者の育成など公益事業を実施する他、地域外商品の販売、施設賃貸等の収益事業についても取り組み当センターの運営安定を図るものとする。

以上のことを踏まえ、平成31年度は次の諸事業を実施する。

1. 地場産業振興事業

盛岡広域圏内の地場産業振興のため、地場産品の普及啓発を図る「地場産品紹介普及啓発事業」、工芸品の振興を図り後継者の確保を目的とする「体験学習事業」、盛岡地域地場産業への理解向上と将来の地場産業振興発展を目的とする「展示資料室運営事業」を公益事業として積極的に推進し、盛岡地域内の地場産業の振興を図っていく。

(ア) 地場産品紹介普及啓発事業

①盛岡広域市町逸品コーナー設置

当振興センター展示即売室内に設けた「盛岡広域ベストセレクション」、「広域市町の新品など話題の商品紹介コーナー」、ネットショップ・盛岡市産業まつり「盛岡広域市町コーナー」の充実を図るほか、新商品や地場企業に関する情報発信機能を強化、販路拡大に努める。

②免税店の充実

免税店の紹介に努め、外国人観光客の誘致に努める。また、外国人向けにPOPを充実させ、展示案内や展示物の紹介により、おもてなし度の向上に努める。

③ふるさと納税返礼品に係る企画商品の開発

平成28年度から盛岡市が実施している「ふるさと納税」に係る返礼品について食品の他工芸品についても検討し、収益増大を図る。

④盛岡市友好都市・うるま市の特産品交流展示

展示即売室内で、うるま市の観光と物産を紹介し、特産品である「泡盛」を展示即売する。

⑤センターロビーでの岩谷堂箆笥入札会の実施

⑥展示即売室の機能強化、充実

- ・来場するお客様に地場製品に関する詳しい情報を伝えるため、展示即売室に従事する職員等の知識及び接客等に係る研修を実施する。
- ・盛岡広域で製造、加工される地場産品を、国内外からの観光客や修学旅行生などの来村者に展示紹介し、盛岡広域が持つ魅力の情報発信に努める。
- ・イベントスペースを利用し、おすすめ商品コーナーを作る他、展示会を開催し、地場産品普及宣伝に努める。また、事業者に対してイベントスペースの周知を図り、展示会や試食販売の手法による効果的な販売促進を図る。
- ・出展業者に対する販売情報提供サービスとして、POS システムデータを分析し、毎月、販売動向をきめ細かに提供し、新商品の企画、開発や販路開拓を支援する。また、消費者の需要動向にも配慮した商品づくりに積極的に働き掛けるなどし、地場産業界の商品開発力、販売力、企画力の向上を促すものとする。
- ・「年間イベントカレンダー」を作成し、季節感を演出しながら変化のある売り場づくりに努め、来村者の増加を目指す。
- ・商品構成の見直しや新商品の開拓を行い、お客様満足度の向上を図る。
- ・展示即売室での接客を通して、消費者の需要動向の把握に努め、事業者へ情報提供を行うとともに、食味を実感し購買意欲を喚起する試食販売に努めるなど盛岡地域の地場産品普及宣伝に努める。
- ・修学旅行生の誘客を図るとともに、盛岡広域の地場産品の購買機会の拡大に向けて、土産品購入額に応じ、扱い旅行代理店に対して手数料を提供する。
- ・繁忙期の5月、8月、10月に「お客様感謝抽選会」を開催し、購買意欲を喚起する。
- ・消費者需要の高まる中元、歳暮の時期を中心に、即売室内にギフトコーナーを設置するほか、広告宣伝に努め、地場産品の積極的な普及を図る。
- ・消費者に対して効果的な商品説明に努め、消費者の視点に立った展示企画、表示を工夫し、消費者に好まれ、選ばれる親切な売場作りを目指す。
- ・接客サービスの向上に向けて、盛岡広域の窓口としての自覚を持った、おもてなしに努める。

⑦見本市や物産展などへの参加、販売

首都圏や北海道、沖縄県で開催される物産展、全国の地場産業振興センターでの交流物産展などで展示商品を紹介し、全国の消費者に対して盛岡広域の商品の普及宣伝を図り販路の拡大を目指す。

- ・県内外で開催される各種イベントに参加し、地場産品の普及宣伝に努める。
- ・県内外の消費者から意見を収集し、商品に対する評価など事業者へ情報を提供し、商品の開発、改良を支援する。
- ・全国の地場産業振興センターへ出展を行い、地域外へ盛岡広域の地場産品の普及宣伝を実施する。
- ・民間小売事業者と連携し出展販売を通じ、盛岡広域の地場産品の普及宣伝を行う。
- ・盛岡市東京事務所と連携し首都圏での催事に出展し、盛岡広域の地場産品の普及宣伝を行う。

⑧インターネット通信販売

- ・バーチャルモール「盛岡市産業まつり」(<http://www.rakuten.co.jp/morioka/>) の運営を行い、盛岡広域の商品を紹介し、インターネットの特性を利用した広域、無店舗による盛岡広域の地場産品の普及宣伝を行い、随時、手軽で、身近なショップとしての充実を図り、地場産品の販売の拡大を目指す。また、消費者動向の把握に努めながら商品構成の見直しや、新

商品の開拓を図り、掲載 500 品目への拡大を目指す。

- ・定期的にメールマガジンを発行し、地場産品に関する商品情報を提供し、消費者需要の掘り起こしに努める。

(イ) 体験学習事業

国内外から来村する方々に、工芸品などの手づくりを通して、ものをつくる喜びと、楽しみ、感動を実感させることにより、盛岡地域の文化や風土、そこから生み出されてきた工芸品への理解を深めることを目的とし、盛岡手づくり村が持つ最も優れた機能の一つである工房の職人の技を活かし、盛岡手づくり村を訪れる方々を対象にした「体験学習」を実施する。また、高齢者をターゲットとして、老人介護施設等に働きかけ、新たな顧客開拓を行う。更には、多様なニーズに対応するため、新たな体験メニューの実験的实施を検討する。平成 31 年度も首都圏や北海道への誘客宣伝に努めるほか、盛岡広域圏内の教育関係機関や地域住民組織などへの働き掛けを強化する。

- ・手づくり教室の開催（通年）

陶器、藍染、竹細工、わら細工、木工、はたおり、こけし絵付、こま絵付、陶器絵付、木の実細工、冷麺（11 分野・22 コース）

- ・多様なニーズに則した体験メニューの公募、実験的实施を行う。
- ・団体系験学習の動向の把握及び旅行代理店、学校等を対象とした誘致 PR 活動のため、岩手県等が主催する教育旅行誘致説明会（札幌・函館・東京の 3 会場）に参加するとともに、新たな需要の開拓を目的として、関西方面への誘客宣伝について研究をいたします。
- ・教育旅行向けパンフレット「ここに、技と心がある」を活用し学校関係者、旅行代理店関係者に対する積極的な手づくり教室のセールス活動を行う。
- ・海外からの観光客の手づくり教室利用を増やすため、県などの招請事業で視察に来場する海外のメディアやエージェント関係者に対し手づくり教室の詳細な内容を説明する等積極的なセールス活動を行う。
- ・宮城県内の旅行代理店、小・中学校への誘致宣伝活動を行う。
- ・修学旅行や団体旅行の行き先決定にかかる事前調査に来る学校の先生や、企業や団体の代表に手づくり教室の詳細や盛岡手づくり村の魅力を伝えることで確実な来村確保に努める。
- ・夏休み特別工作教室、冬休み特別工作教室を開催する。
- ・成人を対象とした本格的な体験種目の研究を行う。
- ・近隣の老人介護施設に働きかけ、新たな顧客開拓に努める。

(ウ) 展示資料室運営事業

盛岡地域地場産業への理解と振興発展を目的に、国内外から訪れる来村者に対して歴史や製造工程、製作者等を資料やパネルで紹介するほか、伝統的工芸品の展示を行う。また、盛岡広域の地場産業振興の充実を図るため、盛岡広域 8 市町と連携しながら広域地場産業の振興に努めるとともに、小・中学校向けの資料を作成し、学習の支援を行う。

- ・盛岡広域圏 8 市町で組織した「盛岡地域地場産業振興センター広域経済活性化懇談会」との連携を図り、展示資料の充実を図りながら広域地場産業の振興に努める。
- ・展示即売室出展者やセンター構成団体等と連携した企画展の研究を行う。
- ・盛岡広域市町と連携し展示資料の内容の精査や展示物の充実を図り、国内外から訪れる来

村者に盛岡広域の産業，文化，工芸品の芸術度の高さへの理解が深まるように努める。

- ・盛岡広域市町と連携し，広域市町の特産品展示コーナーを一層充実させることで盛岡広域の宣伝紹介に努める。
- ・小・中学校向け資料を作成し，資料室を活用した学習を支援することでキャリア教育への対応に努める。

2. 人材育成事業（伝統的工芸品産業支援補助金事業）

伝統的工芸品月間国民会議全国大会を契機に，開催地となる盛岡地域を中心とした伝統的工芸品の若手職人のネットワーク構築と商品力向上に取り組む。

(1) 若手職人交流会の開催

東北経済産業局，岩手県及び盛岡市と連携し，岩手県の伝統的工芸品の若手職人と，東北地域の伝統的工芸品産地の若手職人との交流会を開催する。伝統的工芸品月間国民会議全国大会の機会を活用して，地元職人のほか，他県からも来場する伝統的工芸品職人等との情報交換会や交流会を開催し，先進事例や他産地の取り組みを学ぶとともに若手職人のネットワーク形成のきっかけづくりを行う。

- ・対象：東北6県の若手職人，学生等の来場者
- ・実施内容：伝統工芸に関係する専門家による講演・参加者事例紹介

(2) 工芸品フォーラム

盛岡市と連携し，伝統的工芸品の認知度向上や理解促進のため，一般消費者向けに伝統的工芸品の技術技法や使用方法等をPRするフォーラムを開催する。

- ・対象：盛岡広域圏の職人，一般消費者
- ・実施内容：異業種の関係者等を交えた伝統的工芸品を紹介する若手職人座談会等

(3) 専門家による現地訪問指導

盛岡市と連携し，盛岡広域圏の伝統的工芸品の若手職人に対し，スキルアップに係るニーズ調査を行い，デザインやマーケティング等の専門家を，伝統的工芸品等の工房へ派遣し，新商品・技術向上に資する現地指導等を行う。

現地指導等に当たっては，特に近年増加傾向にあるインバウンド向けの商品開発や販売技術に関する専門家を招聘することなどによって，若手職人による買い手の目線を意識した製造販売手法の習得に重点を置くこととする。これにより若手職人の商品開発力及び販売力等が高まり，安定的な収入を確保することへ繋がることで，地場の伝統工芸産業の継続的な発展に寄与することを目的とする。

- ・対象：岩手県盛岡広域圏の若手職人
- ・実施内容：ニーズ調査の実施・専門家の派遣

王超鷹氏（文化研究者・伝統工芸師・PAOSNET 代表・2018 盛岡手づくり村工芸品フォーラム講師）の工房派遣と意見交換（3日間×2回）

3. 施設賃貸事業

南部鉄器協同組合・自動販売機業者及び一般利用者へ施設の賃貸を行い，当センター運営に必要な収益の一部とする。

4. 販売促進事業

アロニアジャムやアロニアサプリメント，オリジナルアイス「なんじぇら？」の販売を進

める。

また、盛岡地域外の収益性の高い商品や、集客性の高い商品等の販売を行い収益の拡大を図り、センター運営にあてる収益の確保に努める。

さらに、「手づくり村マルシェ」にて来村者へ軽食の提供を図るものとし、メニューの開発に努め、要望に沿った便益を提供する。

5. 共用施設維持管理事業

盛岡手づくり村を構成する、盛岡市、盛岡地域地場産業振興センター、協同組合盛岡手づくり村が共用する施設について、維持管理費を負担し合いながら、施設の管理を行う。

6. 南部曲り家地場産品普及宣伝事業

盛岡手づくり村の南部曲り家は、古くから馬産地である盛岡広域の伝統的な生活様式を現代に伝える貴重な建造物である。この南部曲り家で工芸品の製作実演や伝統行事などを行うほか、体験学習の会場としても活用し、地場産業の歴史や民芸品を宣伝紹介し、地域文化への理解を得るとともに手づくり品の振興を図る。

- ・修学旅行団体など来村者に対して、盛岡広域の文化と地場産業を幅広く紹介することを目的として、こけしや、繭細工などの工芸品製作実演を行い、盛岡広域の地場産品を広く紹介する。
- ・盛岡広域に古くから伝わる民俗・伝統行事などは地場産業の歴史と大きく関わりがあることから、郷土芸能等の開催を行い、一般来場者や外国人客のほか、修学旅行の学生団体を対象に民俗・伝統行事等を将来に伝承する活動を行う。

7. 地場産業普及啓発事業

単年度で実施する行政関係からの委託事業により、盛岡広域の工芸品等を地域の文化とともに広く紹介し普及を図る。

8. 交流促進事業

盛岡広域市町との連携を図りながら共に季節毎の催事を企画、開催するほか、他団体主催のイベントの誘致や支援を行い地場産品の普及宣伝に努める。

また、岩手山麓で工芸品を製作している事業者による「ものづくり市」等の企画について検討する等、新たな企画について調査・研究に取り組み、催事の充実を図る。

- ・盛岡手づくり村盛岡広域ふるさと春まつり 2019 (5月)
- ・盛岡手づくり村盛岡広域ふるさと夏まつり 2019 (8月)
- ・盛岡手づくり村工房まつり (9月) *
- ・盛岡手づくり村盛岡広域ふるさと秋まつり 2019 (10月)
- ・盛岡手づくり村お正月フェア (1月)
- ・盛岡手づくり村冬まつり 2020 (1月)
- ・その他広域市町・関係団体の主催催事支援

* : 工房まつり実行委員会主催事業

9. 管理運営事業

盛岡広域の地場産業振興の拠点性を高めるために、盛岡広域圏内8市町との連携を図り、振興センターが有する機能を活用した事業等を実施するほか、地場産業の状況や各種施策の情報共有を行うことにより、地域経済の活性化を図るとともに、周辺施設との連携に努め来村者の誘客と利便性の向上に努める。

併せて、観光事業に取り組む関係機関などと連携を強化し、競合する施設の中から、選ばれ、喜ばれる、盛岡手づくり村を目指す。

- (1) 全国地場産業振興センター協議会総会の開催地として業務を行う。
 - ①日程 平成31年7月11日(木)・12日(金)
 - ②会場 湯守ホテル大観
 - ③内容 総会会場運営業務、宿泊手配、視察業務等
- (2) 広域経済の活性化を図るため、盛岡広域圏8市町で組織した「盛岡地域地場産業振興センター広域経済活性化懇談会」との連携を図り、情報の共有、交換を行う。
- (3) 盛岡手づくり村の各施設の案内パンフレットを作成し、当振興センターの利用の促進を図る。
- (4) 当村の環境の整備に努め、施設の安全性や清潔度を維持し、来村者の快適性、満足度の向上に努める。
- (5) 平成30年度にリニューアルを行ったホームページの効果的な運用を行う他、フェイスブックを活用した情報発信を行うなど充実を図る。
- (6) アンケート調査を実施し来村者の要望や意向の把握に努め、利用者の利便性の向上や、各種サービスの充実を図る。
- (7) 当振興センター玄関ロビーに設置している「盛岡広域インフォメーション」の充実を図り、観光や催事の情報発信機能を強化する。
- (8) 各旅行代理店に対し、来村時などを捉えるなど積極的に誘致宣伝活動を実施し、来村者の増大を図る。
- (9) 当村や小岩井農場、つなぎ温泉との連携を図り、地域振興と周辺組織として協同の誘客宣伝に努める。
- (10) 御所ダム管理事務所と連携し、誘客宣伝や地域振興に貢献する。
- (11) つなぎ温泉と連携し、誘客宣伝や地域振興に貢献する。
- (12) 協同組合盛岡手づくり村と組織する「盛岡手づくり村環境整備委員会」にて、施設周辺の清掃などの環境整備に取り組む。
- (13) 岩手県や盛岡市が実施する当法人に対する指導、監督、評価事務などに的確に対応し、当法人の健全な施設運営を図る。
- (14) 旅の駅や、赤ちゃんの駅の指定を積極的に受けるとともに、来村者の利便性の向上に向けて施設機能の充実を図る。
- (15) 職員による定期的な「経営会議」を開催し、振興センター運営にかかる情報の共有を図るとともに、健全な運営を行うための検討等を行う。
- (16) 振興センター職員等の地場産業に関する知識の習得、服務遂行にかかる一般的な知識・技術等の向上等を図るため、通年において職員研修を実施する。
- (17) マスコミに対し、盛岡手づくり村や振興センター等の各種の情報提供を行い取材によるパブリシティー活動の促進を図る。

平成31年度 公益財団法人盛岡地域地場産業振興センター収支予算書

平成31年4月1日から平成32年3月31日まで

(単位:千円)

科目	公益目的事業会計		収益事業等会計						法人会計	合計
	公1	公2	収1	収2	他1	他2	他3	他4		
	地場産業 振興事業	人材育成 事業	施設賃貸 事業	販売促進 事業	共用施設維 持管理事業	南部曲り家地場産 品普及宣伝事業	地場産業普 及啓発事業	交流促進 事業		
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
① 基本財産運用益										
基本財産受取利息	4	0	0	0	0	0	0	0	3	7
基本財産運用益計	4	0	0	0	0	0	0	0	3	7
② 事業収益										
事業収益	61,542	0	1,733	35,300	0	0	0	850	0	99,425
委託料収益	1,040	682	0	0	4,048	465	1,684	0	0	7,919
負担金収益	0	0	334	0	1,304	0	0	475	0	2,113
事業収益計	62,582	682	2,067	35,300	5,352	465	1,684	1,325	0	109,457
③ 受取補助金等										
受取公共団体補助金	44,000	1,682	0	0	0	0	0	0	0	45,682
受取民間補助金	0	0	0	0	0	0	166	0	0	166
受取補助金等計	44,000	1,682	0	0	0	0	166	0	0	45,848
④ 雑収益										
受取利息	1	0	0	1	0	0	0	0	1	3
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益計	1	0	0	1	0	0	0	0	1	3
経常収益計	106,587	2,364	2,067	35,301	5,352	465	1,850	1,325	4	155,315
(2) 経常費用										
事業費及び管理費										
期首たな卸高	2,752	0	0	2,974	0	0	0	0	0	5,726
仕入高	22,400	0	0	14,220	0	0	0	0	0	36,620
期末たな卸高	▲ 2,752	0	0	▲ 2,974	0	0	0	0	0	▲ 5,726
給料手当	24,620	1,013	0	594	0	0	0	693	1,297	28,217
臨時雇賃金	11,320	15	0	2,120	0	0	0	0	0	13,455
賞与引当金繰入額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	7,673	216	0	408	0	0	0	150	275	8,721
旅費交通費	653	300	0	0	0	0	1,178	0	150	2,281
通信運搬費	769	19	1	141	0	0	200	0	94	1,224
建物・建物付属設備減価償却費	3,981	0	1,085	215	0	0	0	0	107	5,388
什器備品減価償却費	107	0	15	3	0	0	0	0	2	127
構築物減価償却費	2	0	1	1	0	0	0	0	1	5
ソフトウェア減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リース資産減価償却費	1,963	0	212	548	0	0	0	0	22	2,745
繰延資産減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	2,315	109	72	704	4	41	13	60	27	3,345
修繕費	970	0	200	110	0	140	0	0	20	1,440
印刷製本費	55	168	0	4	0	0	0	0	2	229
燃料費	110	7	0	8	0	0	0	0	4	129
光熱水料費	11,008	0	728	803	2,157	10	0	0	395	15,101
賃借料	850	139	26	318	0	0	0	0	535	1,868
保険料	448	8	74	55	40	0	0	0	12	637
諸謝金	0	587	0	0	0	0	120	240	0	947
租税公課	5,166	0	1,042	1,725	0	0	0	0	0	7,933
支払負担金	70	0	0	0	0	0	0	200	310	580
委託費	6,682	0	1,388	545	5,888	274	0	1,192	848	16,817
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
設営費	0	0	0	0	0	0	0	200	0	200
出展料	2,142	0	0	1,153	0	0	339	0	0	3,634
広告宣伝費	0	130	0	0	0	0	0	108	0	238
手数料	3,056	0	0	697	3	0	0	0	0	3,756
渉外費	0	0	0	0	0	0	0	0	50	50
雑費	34	0	7	2	0	0	0	0	121	164
事業費及び管理費計	106,393	2,711	4,851	24,374	8,092	465	1,850	2,843	4,277	155,856
経常費用計	106,393	2,711	4,851	24,374	8,092	465	1,850	2,843	4,277	155,856
当期経常増減額	194	▲ 347	▲ 2,784	10,927	▲ 2,740	0	0	▲ 1,518	▲ 4,273	▲ 541

(単位:千円)

科目	公益目的事業会計		収益事業等会計						法人会計	合計
	公1	公2	収1	収2	他1	他2	他3	他4		
	地場産業 振興事業	人材育成 事業	施設賃貸 事業	販売促進 事業	共用施設維 持管理事業	南部曲り家地場産 品普及宣伝事業	地場産業普 及啓発事業	交流促進 事業		
2. 経常外増減の部										
(1) 経常外収益										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	2,784	▲ 7,989	2,740	0	0	1,511	954	0
税引前当期一般正味財産増減額	194	▲ 347	0	2,938	0	0	0	▲ 7	▲ 3,318	▲ 541
当期一般正味財産増減額	194	▲ 347	0	2,938	0	0	0	▲ 7	▲ 3,318	▲ 541
一般正味財産期首残高	410,166	0	113,292	29,760	0	0	0	0	▲ 3,869	549,349
一般正味財産期末残高	410,360	▲ 347	113,292	32,698	0	0	0	▲ 7	▲ 7,187	548,808
II 指定正味財産増減の部										
①基本財産運用益										
基本財産受取利息	4	0	0	0	0	0	0	0	3	7
基本財産運用益計	4	0	0	0	0	0	0	0	3	7
②一般正味財産への振替額										
一般正味財産への振替額	4	0	0	0	0	0	0	0	3	7
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	19,000	0	0	0	0	0	0	0	8,370	27,370
指定正味財産期末残高	19,000	0	0	0	0	0	0	0	8,370	27,370
III 正味財産期末残高	429,360	▲ 347	113,292	32,698	0	0	0	▲ 7	1,183	576,178

資金調達及び設備投資の見込みについて

事業	自	平成31年4月1日
年度	至	平成32年3月31日

(1) 資金調達の見込みについて

当期中における借入れの予定の有無・借入がある場合の借入先等

借入れの予定		あり	②	なし
事業 番号	借入先	金額	使途	

(2) 設備投資の見込みについて

当期中における重要な設備投資（除却又は売却を含む。）の予定の有無

設備投資の予定		あり	②	なし
事業 番号	設備投資の 内容	支出又は 収入の予定額	資金調達方法 又は取得資金の使途	